

【高等学校の部 優秀賞】

「食への感謝」

天理高等学校第二部 2年 浜野 二千花

私の父は自営業で料理屋を経営しています。今年の夏、私は父の店にお手伝いに入りました。その時よく目にしたのは最後の一つを残す人が多くいたことです。遠慮のかたまりです。私はあまり好きではありません。なぜかと言うと、おいしいものは食べたい人がおいしく頂くものだと思うからです。私はお皿を下げるときとても悲しくなりました。その残されて捨てられる食をさかのぼると作って下さる農家の方です。より多くの人においしく食べてもらいたくて一生懸命作ってると思います。毎日毎日、暑い中私たちのために作って下さっています。その気持ちをありがたく頂きおいしく食べることが農家の方の幸せにつながるのかな。と思いました。そして作って下さるから父は少し形や味を変えて料理をお客さんに食べてもらうことができます。いろいろな意味で私は農家の方や食べ物への感謝の気持ちを強くもつことができました。そして、好き嫌いがあってもがんばって食べる努力も大事だと思います。

地震や津波、台風といった自然災害が多く、食べることに、作ることも出来ない人がたくさん増えてきています。それに比べ私たちは毎日三食しっかり食べる物があります。あたりまえに何でも食べれると思っているからこそ残したりできるのだと思います。食べものが無くなってから気づくのでは遅すぎます。食べ物があり、作って下さる方がいてあたたかい物が食べれるということに日々感謝していきたいです。そして私と同じ思いをする人が一人でも増えてほしいです。